



隣近所、支え合い住んで良かった朝陽地区！

発行 朝陽地区社会福祉協議会  
共催 朝陽地区住民自治協議会  
社会福祉部会  
長野市大字北尾張部226-9

令和元年度

## 住自協・社協の福祉事業



朝陽地区社会福祉協議会は、4月25日(木)に評議委員会を開催し、新役員体制を確立しスタートしました。

新役員体制は、(敬称略)顧問高野正晴、相談役山田千代子、会長宮澤康幸、副会長水野親司(会計)副会長小林邦男、千野登、横関義登、横田暁子、理事丸山重一、丸山年永、今井寛明、高山三良、依田卓、高野豊、本藤大太郎、上松則子、上野博、評議員58名の構成になります。

新事業は、現在推進中の第二次地域福祉活動計画を柱に、地域住民の健康で安心・安全な生活を基本理念とした「ささえ愛あさひ」をより具体化し下記の事業を展開します。

- 1、総務 制度の改正・福祉ワーカー等の見直し ・地区社会福祉大会開催 ・各種研修会の企画推進 ・支え合うまちづくり協議体の推進
- 2、会計 予算及び決算管理・補助金管理・住自協会計との連携・福祉自動車の運行管理
- 3、地域たすけあい事業 高齢者移送福祉自動車の運行管理 ・家事援助事業
- 4、高齢者福祉 傘寿のお祝い事業・ふれあいの旅事業(障がいをお持ちの方、独居や高齢者の方と交流を図る)  
男性のための料理教室(地域活動参加のきっかけづくり、年間8回開催)  
はつらつ健康体操の推進(介護予防、体力・健康づくりの推進)
- 5、児童福祉 子育て広場赤いほっぺ・小学生ふれあい福祉体験教室・放課後子ども総合プランの運営  
子ども食堂(まんぷく食堂)・世代間交流  
朝陽小学校の屋内運動場の改築(2021年3月まで施工)
- 6、地域福祉 お茶のみサロン・ふれあいの集い・地区別福祉懇談会・オレンジカフェ(まめカフェ、毎月第1木曜開催・オレンジカフェきたほり、毎月第4土曜開催)  
買い物お助けマン・福祉推進員研修・はつらつ健康体操視察研修の実施(福祉推進員対象)
- 7、調査啓発 福祉計画の推進・福祉推進員の総括・支え合いマップづくり  
第2次地域福祉活動計画の推進・あんしん便利帳の見直し
- 8、広報 社協だより、社会福祉部会だより・シルバー通信  
赤いほっぺ通信



# 令和元年度 福祉推進員研修会

新しい福祉推進員を対象に最初の研修会が5月11日午後開催されました。

講演会、委嘱書の授与、区ごとに分かれての話し合いが行われました。

講義 「福祉推進員の活動について」 長野市社協・地域福祉課足立幸子係長

地域福祉とは何でしょうか？ 地域のつながりの中で誰もが安心して、生き生きと暮らせる状態を作っていくこと。そのためには行政・福祉事業者・住自協・地域役員・地域住民の相互の連携した取り組みが必要です。自助・互助共助・公助と言われる、それぞれの立場の役割分担で協力しあうことが大切です。

今、地域福祉の問題の背景にあるものは、少子高齢化・人口減少、家族機能の外部化、価値観の多様化で地域住民同士がばらばらでつながりが希薄化していると言われます。安全で安心な地域は、支え合いのまちづくりが必要とされています。

身近な地域での人のつながりづくり、居場所づくりのために福祉推進員はお茶のみサロンなど、無理なく、楽しく、身近なところから福祉のまちづくりを進めよう。

講義 協議体「ささえ 愛 あさひ」の目指すものとは 古川晴雄代表

昨年3月以降毎月1回参加者が集まり、議論を重ねてきました。当面、現行体制で活動を継続していきます。

介護保険制度は19年目になりますが、当初「介護の社会化」を目指した制度でしたが、価値の変化が起こり「地域社会の福祉化」へと大きく変わってきました。

地域の課題として、それぞれの地域に対応した協議体を作り、そこで、「なぜ」、「誰が」、「何を」、「いつ」、「どうする」、「どうやって」解決すればよいか考えなければなりません。

活動項目として①住民意識の高揚と担い手の発掘、②各区協議体の設置促進、運営の支援、③居場所づくり、繋がりづくり、④支え合いマップづくり、⑤助け合い（生活支援）の創出などが考えられる。一人でも多くこの活動に参加して「まちづくり」に参加してほしい。

## 区ごとのワークショップ

区ごとにテーブルを囲み今後の活動を話し合い、結果を披露しあいました。オレンジカフェの内容、実施回数、支えあいマップづくり、コミュニケーションを

# 福祉ワーカー募集中!!

福祉に関心があり、お手伝い頂ける方を探しております。社協事務局213-6170までお電話をお待ちしております。